

平成27年度 学校教育に関するアンケート調査の結果について

1 アンケート調査による自己評価と学校関係者評価

(1) アンケート結果のまとめと考察 (○良い点 ●改善が必要な点 △その他)・・・自己評価

① 子ども

◎学校生活(学校や先生)の大部分の項目において、8割から9割の児童がプラス評価をしている。

○「友達と仲良くして、学校生活を楽しくしている。」の割合が今年もさらに向上した。

○「授業中進んで発表しようとしている。」の割合が9%も向上している。授業内容の理解と児童発表の連携ができつつある。

○「授業(勉強)はよくわかる。」の割合が7%も向上し、9割を大きく超えた。今年の教師の指導改善の努力が成果を見せている。

○「給食を好き嫌いせず食べている。」の割合が増加している(約8割)。食育指導が良い効果を見せ始めている。

△「交通のルールを守って生活している。」の割合の向上が止まってしまった。根気よく呼びかける必要がある。

△「元気いっぱい過ごして、健康管理や体力作りをしている。」の割合は少し増えたものの8割未満となっている。狭い場所での運動チャレンジプラン等に継続して取り組む必要がある。

●「自分から進んで挨拶している。」の割合が少し下がってしまった。挨拶運動をさらに積極的に実施する必要がある。

●「おうちの人と毎日いろいろなことについてお話をしている。」の割合が徐々に増えていたが今年はその割合が少し減少してしまった。

●「サマースクールは参加して良かった。行きたかった。」の割合が年ごとに増えていたが、今年はやがってしまった。開催講座の種類も増やし参加者も増加しているが相対的に子どもが楽しく感じるものが減ってしまったためと思われる。

② 保護者

◎本校の教育については多くの方にご理解をいただいております、大部分の項目において8割を超えるプラス評価となっている。

○「学校行事やPTA活動などに参加するようにしている。」の割合が年ごとに増加している。感謝するとともに、さらなる参加呼びかけや魅力あるPTA行事を心がけたい。

△「サマースクールは子どもたちにとって有意義であった。」の割合が9%も増えている。しかし、教育的な講座を増やした結果「参加して良かったと」感じた児童が減ってしまった。テーマの選択を改善していく必要がある。

△「家庭でお子さんとできるだけたくさん会話している。」の割合が増加している。しかし、児童が「家庭で会話している。」と感じている割合は減少している。会話の内容によって感

じ方が異なっているためと思われる。

- 「お子さんは学習に意欲的に取り組んでいる。」の割合が7%も向上している。家庭での児童の学習について積極的に関わってくださっていると思われる。
- 「教職員が挨拶などの生活指導をしている。」と感じている割合が増えている。保護者の方がしっかりと見てくださっていることがわかる。引き続き挨拶運動に積極的に関わる必要がある。

③ 教職員

- ◎学校教育目標の実現に向かって学校運営されている。
- 子どもの興味・関心・意欲を喚起するように授業を工夫している。
- 特別支援学級の正しい理解をより推進するための交流活動に大変努力している。児童の「友達と仲良くしている」割合の向上にその成果が見られる。
- △「運動の楽しさを高めるための学習内容・方法・指導を工夫」に大変努力している。ただ、実際の体力向上までにはまだ至っていない。
- 事故・事件・災害などに対して、迅速かつ適切な対応ができるような役割の明確化がさらに必要である。

(2) アンケート結果に基づいた学校関係者の意見……学校関係者評価

① 挨拶について

- ・挨拶運動を継続して実施するとともに、大人からも挨拶をするよう心がけるとよい。
- ・挨拶する児童は少しずつ増えているように感じている。

② 人間関係について

- ・人間関係を学ぶ場が減っている。大人も含めて自分本位に物事を考える人が増えている中で、先生方はよく頑張ってくれている。

③ 運動会について

- ・昨年に引き続き実施された城東中学校での運動会はとても良かった。特に全校ダンスが良かった。準備や運営で先生と保護者、そして子どもが力を合わせた結果だと思う。
- ・次年度の運動会は是非沖洲小で実施できるよう、夏休み中の工事終了を働きかけてほしい。

④ サマースクールについて

- ・教師や保護者と児童では魅力あるテーマが違ってくるので選択は難しい。

⑤ PTA 活動等について

- ・PTA 活動に参加してくれる人が増えていることは大変素晴らしい。引き続き工夫してほしい。
- ・子どもの見守りパトロールに人員が不足している。PTA が参加してくれないだろうか。また、健全育成活動にも PTA が参加してくれないだろうか。

⑥ 人権について

- ・言葉遣いの改善への努力は続けた方が良い。人を傷つける言葉についても家庭と協力して指導していくと良い。言葉遣いの改善は学校だけではなかなか定着しない。

⑦ 学力向上について

- ・先生方の「わかる授業」などの学力向上への努力は良い効果を上げつつある。

⑧ 体力向上について

- ・運動場がないという制約があるが、現状でできることをいろいろと工夫してくれている。体力向上に結びつくまで努力を続けてほしい。

⑨ 学校生活について

- ・学校が楽しいと感じている児童が増えだしていることはとても良い。子どもが楽しく学べるようにさらに工夫を続けてほしい。

⑩ 新校舎について

- ・災害に強い大変素晴らしい校舎ができた。子どもの安全が守れる事はもちろん、地域としても大変うれしい。

2 今後の学校教育改善方策について

○新校舎と新体育館の設備や学習環境を生かした沖洲小学校の教育を模索する。

- ・「エコと防災」に優れた沖洲小学校

○児童の学習意欲向上策を工夫する。

- ・「わかる授業」をさらに推進するため、「めあて」が児童と共有できるような手立てを工夫する。さらに授業の振り返りの時間をとり、授業内容の定着に努める。

○運動の楽しさを高めるための学習内容・方法・指導をさらに工夫する。

- ・狭い場所での運動チャレンジプラン等を積極的に実施

○学校・家庭・地域の連携をさらに進める。

- ・PTA 活動への参加呼びかけや魅力ある PTA 行事を心がけるとともに保護者どうしのつながりづくりに努める。そのつながりを地域にまで広げる。
- ・今まで以上に、PTA 総会・PTA 役員会・学級懇談などの機会を捉えて子どもたちの現状を知らせ、共に考えていくように努める。
- ・地域のコミュニティ紙への寄稿・オープンスクールの実施だけでなくサマースクールの情報も積極的に発信し、学校の様子を広く知ってもらう。
- ・総合的な学習や生活科において、学年別の教育計画を地域と学習内容の面から見直す。

○サマースクールでは、教師・児童・保護者、三者にとって魅力あるテーマ設定に努める。

○効果を上げつつある食育をさらに積極的に進める。